

横浜市営地下鉄ブルーライン 「あざみ野～新百合ヶ丘」を延伸へ！

～事業を推進するため、横浜市と川崎市で相互に連携・協力します～

横浜市高速鉄道3号線の延伸（あざみ野～新百合ヶ丘）について、事業化に向けて横浜市、川崎市が協調し、事業計画について合意形成を進めてきました。このたび、本事業の整備効果、延伸区間の費用対効果及び採算性が認められることから、横浜市として、事業化することとします。今後、事業許可に向けて、国や関係者との協議・調整を進めていきます。

また、横浜市・川崎市で、相互に連携・協力し、早期開業を目指すことを目的として、覚書を交換しました。

本路線は、横浜市営地下鉄ブルーラインを延伸するもので、横浜市交通局が事業主体として、横浜市営地下鉄あざみ野駅（横浜市青葉区）から小田急線新百合ヶ丘駅南口付近（川崎市麻生区）までの約6 kmの区間を整備、運行します。延伸区間には、新たに4駅を設置し、交通政策審議会答申の目標年次である、平成42（2030）年開業を目指します。

本路線の整備効果として、鉄道のネットワークが充実することによる広域的な交通利便性の向上や、新幹線へのアクセス機能が強化されるとともに、新駅設置による利便性の向上や、駅周辺まちづくりなど、沿線地域の活性化が期待されます。

今後、国や関係者との協議・調整を進めるとともに、鉄道事業法や都市計画、環境影響評価等の手続きを経て、早期の事業着手を目指します。

■位置図



※概略ルート3案について、総合的に評価した結果、「東側ルート」を、より整備効果が高い有カルート案と考えています。

■概略ルート・駅位置図



横浜市高速鉄道3号線延伸の概要

■事業概要 ※ 整備延長、概算事業費は、概略ルート3案を基にした数値

整備区間：	あざみ野～新百合ヶ丘
整備延長：	約6.0km～6.5km
概算事業費：	約1,690億円～1,760億円
ルート・駅位置：	新駅4駅（既設あざみ野駅を除く）
事業主体：	横浜市交通局（第一種鉄道事業者）
事業スキーム：	地下高速鉄道整備事業費補助（想定）
開業：	平成42年開業目標（交通政策審議会答申の目標年次）

■整備効果

（1）広域的な鉄道ネットワークの形成

横浜・新横浜都心、港北ニュータウン、新百合ヶ丘・多摩ニュータウンなど、横浜と川崎市北部、多摩地域を結ぶ、新たな都市軸が形成されます。また、災害等による輸送障害発生時の代替経路が確保されます。

（2）新幹線へのアクセス機能の強化

横浜市北西部のみならず、川崎市北部・多摩地区など、広い範囲から新横浜駅へのアクセス機能が強化されます。

（3）移動時間の短縮（例）

○拠点間アクセスの強化

新百合ヶ丘～あざみ野 約30分→約10分 約20分短縮（乗換なし）

○新幹線アクセスの強化

新百合ヶ丘～新横浜 約35分→約27分 約8分短縮（乗換なし）

（4）沿線地域の活性化

新駅周辺まちづくりの活性化や、ターミナル駅の交通結節機能、沿線地域の公共交通ネットワークの強化に寄与します。

（5）需要予測

約8.0万人/日

■費用対効果分析・事業採算性分析

費用便益比（B/C）：1.48～1.59（30年）、1.83～1.97（50年）

（※鉄道プロジェクトの評価手法マニュアルに基づき算出）

累積損益欠損解消年：25～30年、累積資金不足解消年：33～36年

1. これまでの取組状況

平成26年度～ 事業化に向けた基礎調査を開始

平成28年4月 交通政策審議会答申第198号（高速鉄道3号線延伸等が位置付けられる）

平成29年度～ 横浜市交通局を事業候補者として、鉄道事業者の視点による調査検討を実施

平成31年1月 事業化判断の公表（今回）

2. 横浜市と川崎市の連携

横浜市と川崎市は、平成23年度に新たな交通体系の検討のための連携・協力に関する覚書を交換して以降、本路線について、両市で具体的な検討・調査を開始しています。

このたび、相互に連携・協力し、早期開業を目指すことを目的として、覚書を交換しました。また、駅周辺の基盤整備や沿線のまちづくりについても、両市で相互に連携・協力して、取り組んでいきます。

3. 今後の進め方

ルートについては、今後、市民の皆様へ情報提供を行い、御意見を伺うとともに、平成31年度中を目途に1案に選定する予定です。

4. 両市長によるコメント

○林文子 横浜市長コメント

このたび、横浜市高速鉄道3号線の延伸について、整備効果、延伸区間の費用対効果及び採算性が認められることから、事業化することを判断いたしました。

新横浜から港北ニュータウン、新百合ヶ丘、多摩ニュータウンなど、両市の北部や多摩地区を結ぶ、新たな都市軸が形成され、これからの両市の成長・発展に向けて、大変、重要な路線と考えています。

また、鉄道ネットワークの充実による交通利便性の向上とともに、新駅周辺のまちづくりや、地域経済の活性化に大きな弾みになるものと期待しています。

両市の市民の皆様が待ち望んでいる路線ですので、川崎市との連携を図りながら、早期実現に向けて取り組んでまいります。

横浜市長 林 文子

○福田紀彦 川崎市長コメント

横浜市高速鉄道3号線の延伸の事業化判断にあたり、私としても、両市で合意していくことの政策判断を行い、共同会見を開催する運びとなりましたこと、大変うれしく思います。

事業化により、広域的な鉄道ネットワークの強化に加え、新百合ヶ丘駅周辺地区のより魅力あるまちづくりへの寄与、さらに、市域内への中間駅の設置により、北部地域の一層のアクセス性・利便性の向上や、地域の活性化が図られるなど、さまざまな効果が期待されます。

本日の発表を契機に、北部地域のまちづくりが、ダイナミックに動き出すこととなり、大変意義のあるものと考えております。

引き続き、横浜市と連携し、早期事業着手に向けて取組を進めてまいります。

川崎市長 福田 紀彦

5. 覚書の締結

横浜市と川崎市は、横浜市営地下鉄ブルーライン延伸事業について、事業を円滑に進めるため、相互連携・協力に関する覚書を締結しました。



写真 覚書締結の様子①（横浜市役所）



写真 覚書締結の様子②（横浜市役所）

※写真データのお問い合わせは、横浜市都市整備局都市交通課（045-671-2021）まで

【お問い合わせ先】

横浜市	都市整備局都市交通課	橋 詰	電話	045-671-3515
	交通局建設改良課	上 杉	電話	045-326-3802
川崎市	まちづくり局交通政策室	久木田	電話	044-200-2760